

2017. 1. 16

作成：丸谷浩明

第1回 BCAO 仙台地域勉強会 議事録

1. 日時：2017年1月6日（金）17時より18時半頃まで

2. 場所：東北大学災害科学国際研究所 演習室 C

3. 参加者：＜50音順＞ 計24名

*会員：丸谷（東北大災害研：座長）、寅屋敷（東北大災害研）、尾崎（ウィッシュ）、小友（富士通エフサス）、佐々木一元（A.I.P）、佐々木宏之（東北大災害研）、菅沼（東京海上日動リスクコンサルティング）、武田（山形ゼロックス）、千葉尚樹（エキスパート）、蓮江（日本政策投資銀行）、大和（凸版印刷）（11名）

*オブザーバー：五十嵐（みやぎ生協）、今田（東北大公共政策大学院）、加納（鹿島建設）、佐々木一英（安田総合）、佐藤恭二（ケーエス）、小豆嶋晃（安田総合）、小豆嶋淳（安田総合）、鈴木（三井住友海上）、谷崎（東北大公共清濁大学院）、谷田（東北地整）、田脇（仙台市）、宮原（A.I.P）、覧塔（大学生協 中国・四国事業連合）（13名）

4. 議事：BCAO の講演ビデオを閲覧と意見交換

(1) BCAO の講演ビデオを閲覧と意見交換その1「熊本地震及び東日本大震災における安否確認の事例紹介」（インフォコム株式会社）

○質疑応答

Q（質問）：家族の安否が確認できない職員に対して仕事を任せられないと思うが、民間企業ではどうなのか。

C（コメント）：安否確認システムで家族の安否についても確認することは可能で、行っている例もある。ただし、個人情報の観点から、家族の情報を登録することは一般にはハードルが高いと思われる。夜間休日の発災であれば、従業員に、家族の安否を合わせて回答してもらうことはできるが、質問の勤務時間中の発災の場合には、企業でも簡単ではなさそう。

C：従業員の家族も安否確認システムの対象に入れている例も少数だがある。

C：安否確認システムを日常の確認（例：欠勤した社員への連絡）に使用している例もある。

C：登録アドレス数に応じて安否確認システムの費用が高くなるため、家族を入れると費用の捻出でしり込みされることがありそうだ。

Q：LINE を安否確認システムと連動させることは難しいとのことだが、他の SNS でも同様か。

C：SNS との連動は、他の企業のサービスとの連動となるが、それはセキュリティの面などで容易ではない。

C：安否確認メールの既読確認ができるようになれば有用だと思う。

C：安否確認では、個人の携帯電話アドレスは変更できるので、連絡可能かどうか定期的に確認することが重要である。

C：安否確認に際して、否の連絡があったときの対応をどうするのが難しい。

(2) BCAO の講演ビデオを閲覧と意見交換その 1「顧客企業が経験した熊本地震対応の成功と課題」(株式会社 レスキューナウ危機管理研究所)

C：情報の抜け漏れがあると災害対応の意思決定ができないため、意思決定を行う際に必要となる情報を明確にすることが重要な視点での発表と理解できる。

(3) その他

座長：BCAO 仙台地域勉強会に関して、会員が 10 名以上確保されたため、今後も継続できるようになった。今後も、会員となっていただくよう、引き続き検討いただきたい。

座長：次回の BCAO 仙台地域勉強会の開催日時：2 月 3 日（金）17 時～18 時 30 分



勉強会の様子

以上